

# いの流水俳壇

松尾 満津於 選

## 兼題「秋の夜」(当季雑詠)

片減りの消しゴム親し秋の夜

岡本とも子

(評)自然の推移に、微妙な対応を示しながら、心の襞をのぞかせた句である。苦心して作句しており、楽に作句はできない。季語をいくつも並べ、書いては消し、消しては又書く、無意識に繰り返すうちに消しゴムは片減りになってしまった。秋の夜長、苦しくもあり、また親しくもある老境ともちがった熟年の感慨のこもった句。

ありったけの鉛筆削る秋の夜

植田 紀子

(評)なんと、いうこともない作品のように思えるが、心の空洞を覗いて見るような句である。作品に定着した詩情の在り方に少し暗い部分があり胸に一物をいだいていたから、自分が自分に返るまで、ありったけの鉛筆を削っていたのである。眼でたのしみ、胸につかえていたものが「秋の夜」という一語に収まっている。

秋の夜や反射襷のすれちがい

弘瀬うき子

(評)註記はないが、この句の反射タスキは、夜間に行われた交通安全のパトロール時に使用した光反射タスキであろう、如何にも秋の夜にふさわしい。だがこの句の焦点は、タスキではなく、事故のない静かな夜の情景であろう。

秋の夜や机の側の虫眼鏡

川村 博子

(評)秋も深まり秋冷えが村をつつむ季節になると、深みゆく秋を鮮やかに感じ、なにかほのぼのとした温みをおぼえる。表現が単明なだけに、感傷の襞を鮮やかにする。これは多分選者の勝手な連想に過ぎないかも知れないが、作句者も漸く老いを自覚する年令になった中で、作句に精出しているであろう。机の側の虫眼鏡が、それを雄弁に物語っている。

窓越しの山を近寄せ秋の月

森岡 照月

(評)秋灯下窓際に椅子を寄せ外を眺めている。正面のどつしりとした山容、おおかたは雲にかくれ、山裾に点在する家の灯が、きらめいて見える。更に椅子を窓際に寄せて観る秋の月。直観的にとらえた月の美しさ。

菊かおる傘寿の人となりにけり 大川 節弥

夫愛でし松影寂し秋の夜 筒井 正子

外路燈ここにも欲しい秋の夜 片岡 包女

老まじと句心もやす秋の夜 刈谷 志津

納骨す秋の夜風が胸に沁む 間 浩太

秋の夜寡婦となる娘を労わりて 井上 郁子

過ぎしことはからのこと秋の夜 伊藤 萩甫

カーテンを開けて月光誘い込む 津田 久美

猫といて静かに深む秋の道 友草 水月

わけもなく佗しき齡秋の夜 竹崎 光子

秋の夜や灯りポツント常夜燈 筒井 一平

秋の夜や下駄走らせて誰か来る 松尾満津於

### 次 題 「古曆(ふるごよみ)」

新しく曆が配られると、これまでの曆は古曆となるのである。年の暮れるまでは未だ古曆にも用がある。四、五枚になったカレンダーも亦古曆である。(二句)。当季雑詠

例句 大安の日を餘しけり古曆

(虚子)

締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

## いの警察署からのお知らせ



平成18年6月から施行されている「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」に基づいて、毎年12月10日(木)～16日(水)を「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」とし、各種啓発活動に取り組んでいます。

これまでの北朝鮮工作員による拉致の多くは海岸付近で発生しています。昼間、夜間を問わず

○海岸周辺でうろつく見かけない不審な者(車・船)

○人目に付きにくい場所で潜んでいるような不審者

などを発見した際は警察へ通報をお願いします。

● 問い合わせ いの警察署 ☎ 893-1234